

特集

形成外科のご紹介 特に再建外科について



形成外科 院長
あお まさかず
青 雅一



日本形成外科学会 専門医 指導医
日本形成外科学会 皮膚腫瘍外科分野指導医
再建・マイクロサージャリー分野指導医
岡山大学臨床教授

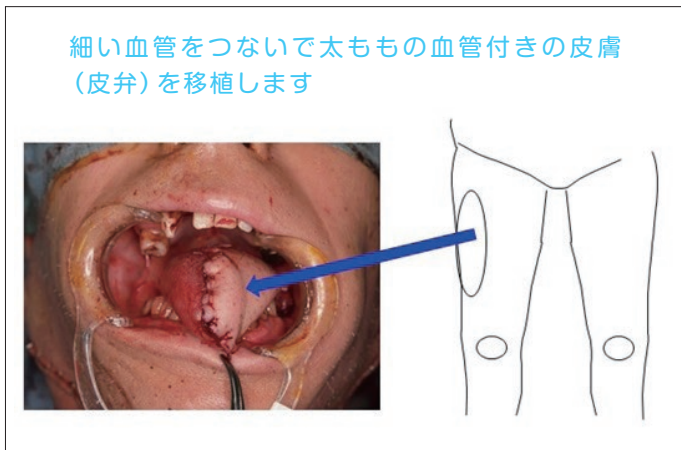
形成外科をご存じでしょうか？ 近年、認知度が上がったとはいえ、いまだに「何をやっているのかわからない」、「整形外科の一種か？」という声をよく耳にします。形成外科は英語では Plastic and Reconstructive Surgery と表記され、日本語訳は「形成再建外科」となります。紀元前 6～7 世紀にインドで鼻の形成手術が記載されていますが、以後 19 世紀までは見るべき進歩はありませんでした。その後、戦争のたびに進歩してきた診療科です。

形成外科では機能と外観の両方を大切にしており、「美しいデザインに宿る優れた機能」というコンセプトのもとに診療を行っています。実際には小児の先天異常のうち体表奇形、皮膚腫瘍、顔面骨折、熱傷、美容から再建まで幅広く診療しています。このうち、主に、顕微鏡下に行うマイクロサージャリー（微小外科）による再建外科についてご紹介したいと思います。

I. 頭頸部再建

耳鼻咽喉科で扱う、鼻・耳・のど・口の中の、がん切除後の欠損の再建が主体です。血管付きの皮膚・筋肉・骨及び小腸（空腸）を移植して再建します。主に前外側大腿皮弁という^{せんつうし}穿通枝皮弁で再建されます（図 1）。上下顎の骨欠損がある場合は血管付きの骨と皮弁で再建します（図 4）。

【図 1】 前外側大腿皮弁による舌癌切除後の再建

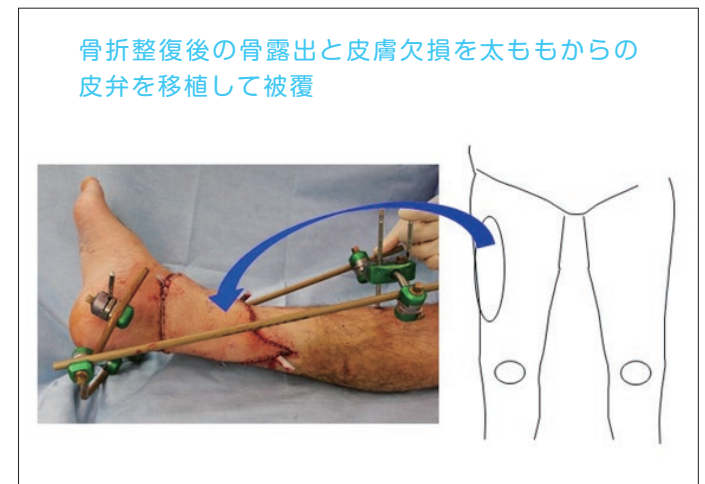


II. 重度四肢外傷の再建

近年、自動車の安全機能が飛躍的に進歩し、工場や作業現場での安全管理が改善したため、重度四肢外傷はかなり減少しましたが、いまだに設備やマンパワーの問題で、再

建に難渋する分野です。マイクロサージャリーによる血管付きの骨や皮弁の移植により、切断に至る症例が減少しました（図 2、4、5）。

【図 2】 前外側大腿皮弁による巨大皮膚欠損を伴う下腿開放骨折の再建



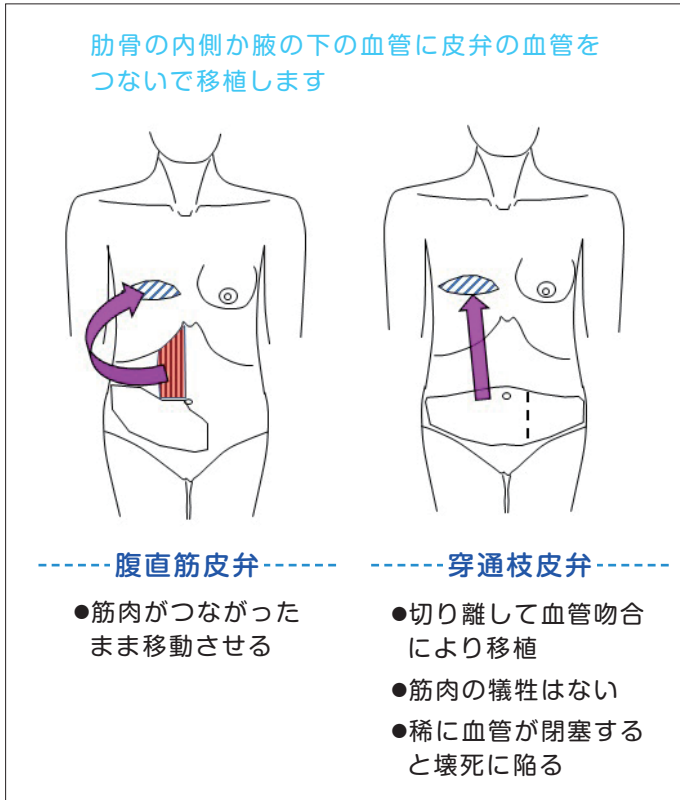
III. 乳房再建

乳癌切除後の再建には、切除と同時に再建を行う場合と、後日二期的に行う場合があります。再建材料としては主に腹部の穿通枝皮弁を用いますが、広背筋皮弁や腹直筋皮弁を用いる方法もあります（図 3、4）。日本ではシリコンバツ

グのような異物の挿入が好まれないため、9割が自己組織の移植により再建されています。乳輪・乳頭の再建方法もいくつかあります。

腹直筋皮弁は安全に移動できますが、筋肉が犠牲になります。穿通枝皮弁は取りまわしが容易で形を作りやすいのですが、稀に血管が詰まると壊死になり、組織が無駄になります。それぞれ長所、短所があり、一長一短です。

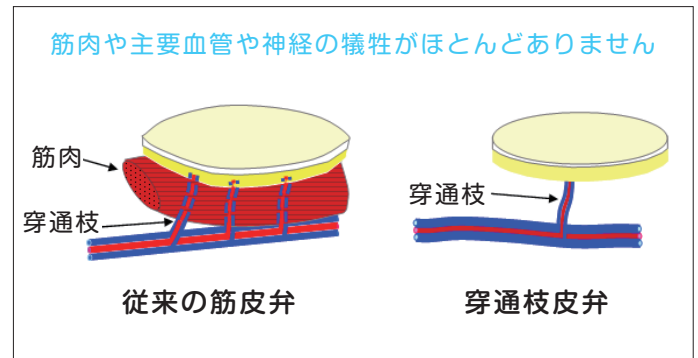
【図3】 腹直筋皮弁と深下腹壁動脈穿通枝皮弁による乳房再建



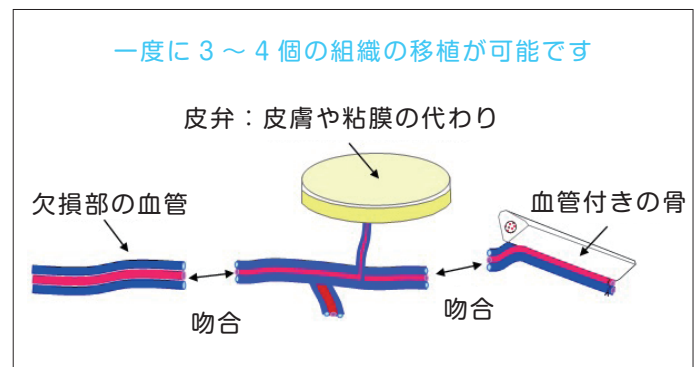
穿通枝皮弁とは？！

筋肉などの臓器へ血液を送る血管から、皮膚へ血液を送る「穿通枝」と呼ばれる細い血管が枝分かれます。この細い血管だけで養われる皮弁は「穿通枝皮弁」と呼ばれ、筋肉や主要血管や神経の犠牲がほとんどありません。現在では従来の筋皮弁に代わって、再建材料の主流になってきました(図4)。

【図4】 穿通枝と穿通枝皮弁



【図5】 複数組織の合併移植



～看護の道へ誓いを胸に～
 岩国医療センター附属岩国看護学校
 第76回生 継灯式 教員 原田 高志

令和4年11月9日、看護への決意を誓う『ナイチンゲール誓詞』とともに、76回生80名は看護の道へ一歩を踏み出しました。



今月の表紙：継灯式



学生が書き記した決意の言葉には「患者さんに心から寄り添える看護師になりたい」「笑顔を絶やさず信頼される看護師になりたい」という看護師に大切な姿勢を表すものが多くありました。ナイチンゲールの有名な言葉に『天使とは、美しい花をまき散らす者ではなく、苦悩する者のために戦う者である』とあります。日頃から支えていただいている方々への感謝を忘れず、患者さんを支えられるように看護の知識や技術を深めていきたいと思ひます。